

ささげ品種「因島早生」

吉崎徹磨・大森 武

1 は し が き

広島県島嶼沿岸部地方では、ささげは重要な間作物であるが、品種が雑ばくなため品種統一の要望が強く、又夏期の早魁前に収穫出来る早熟で安定度の高い品種が必要であるので、かかる目標で育成した品種である。

2 来 歴

広島県立農業試験場島嶼部支場において、1959年に岡山県在来種を素材として個体選抜を行ない、1960年に系統名「35K-1-55」を付して2ヶ年間系統選抜試験を行なった。さらに1962、1963年の2ヶ年間生産力検定試験を行なった結果優良系統と認められたもので1963年に「因島早生」と命名した。

3 形 態 的 特 性

矮性で、主茎長は重井在来種と同程度である。小葉は3枚で、重井在来種より長形であり、花は青紫色で、着莢数が多い。子実は楕円形で赤色、やや小粒、臍の色は白色である。粒形が齊一で多収品種である。

4 生 態 的 特 性

重井在来種より早熟で、8月の早魁期までに収穫を終ることができる。煤黴病抵抗性はやや強いようである。

5 適 地

8月に早魁する瀬戸内海沿岸島嶼部地帯に適する。

6 栽 培 上 の 注 意

遅播きすると収穫期が8月の早魁期になり、早熟の特徴を発揮できないので、適期播種（5月上～中旬播き）が必要である。

7 試 験 成 績

第1表 生育および特性調査成績（1963）

品 種 名	開花期 (月日)	収穫始 (月日)	収穫終 (月日)	主茎長 (cm)	子 葉 長/巾比率	1株花梗 数 (本)	莢 長 (cm)	1 莢粒数	煤黴病 被 害
因島早生	7.7	7.22	8.5	170	1.56	32	15.1	13.2	ビ
重井在来種	7.9	7.25	8.19	172	1.21	25	13.6	11.4	少

第2表 収量調査成績 (1962・1963年の2ヶ年平均)

品 積 名	茎葉重 (kg/a)	莢実重 (kg/a)	莢 数 (個/a)	子 実 重 (kg/a)	同 比 率 (%)	百 粒 重 (g)
因島早生	16.1	17.4	12.564	13.62	114	12.4
重井在来種	22.6	14.9	9.263	11.91	100	15.5

8 育 成 従 事 者

第3表 育成従事者

年 次	世 代	育 成 従 事 者
1959	個 体 選 抜 試 験	吉崎徹麿 大森 武
1960	系 統 選 抜 試 験	" "
1961	"	" "
1962	生 産 力 検 定 試 験	" "
1963	"	" "

Summary

On Breeding of "Innoshimawase" a New Variety of Cowpea,

Vigna sinensis ENDLICHER

Tetsuma YOSHIZAKI and Takeshi OMORI

1. A new variety of cowpea was bred up from Okayamazairai by line selection and designated "Innoshimawase" after its breeding locality.
2. The plant is dwarf. Seed is rather small, oval in shape and red in colour.
3. This variety is early ripening, and well adapted for the cultivation on islands in the Seto Inland Sea.